

アフリカ子どもの本プロジェクト 2013年度活動報告

1、概況

運営会に集まってくるメンバーはほとんどが忙しい仕事を抱えています。事務局ありません。なので、私たちの歩みはほんとにゆっくりですが、今年はおかげさまで設立から10年の節目を迎え、会員数も増えています。今後はFacebookなどをうまく使って私たちの活動知っていただくようにもしたいですし、ケニアにつくったドリームライブラリーの将来についても真剣に考えて行かなくてはならないと思っています。

2、会員数

2012年度末の会員数は94名でした。昨年度からの継続会員を含め、新聞記事、図書展、講演会などを通して今年度も賛同者が加わり、2013年度末の会員数は104名となりました。

3、2013年度活動報告(2013.4-2014.3)

3-1 運営会の開催

毎月1回運営会を持ち、アフリカへの支援、選書や図書展、イベント等の打ち合わせを行いました。

3-2 アフリカへの図書支援

1) ケニアのドリームライブラリーを支援する活動について

アフリカ子どもの本プロジェクトの柱の1つは、ケニアにつくったドリームライブラリーを継続的に支援すること。以前は、現地での管理・運営は「少年ケニアの友」が担っていただきましたが、「少年ケニアの友」は現地を引き払い、活動のすべてをケニア人のNGOであるドレスチコ(DRESCHICO)の手に移そうとしています。そのため当プロジェクトでも、これまで以上にいろいろと考えたり行動したりすることがふえてくると思われまます。

現在は図書館員のお給料を当プロジェクトが負担していますが、今後はそれ以外の補修・修理費、ドレスチコの交通費なども負担することになると思います。

ケニア政府は義務教育(8年間の小学校教育)の無償化を宣言していますが、教科書は全員に行き渡るだけの数が来ていません。そのため上級学校に行こうとする生徒から、教科書や参考書の要望が当然のことながら出てくることになります。ケニアは、アフリカでは識字率の高い(ほぼ90%)国で、近年大学への進学者数も急激に増えていると聞きます。ただし、政府からの補助金を得て大学で学ぶには相当よい成績を取る必要があるそうです。最近では楽しみのための読書にも目が向けられつつありますが、まだまだ上級学校へ行くための学習の場として図書館を考えている人たちが多いのだと思います。

今後シャンダの開館日をふやすのかどうか、教科書や参考書はどの程度備えればいいのかなど、現地の声も聞きながら考えていきたいと思っています。

以下は、ドレスチコからの昨年半年分の報告をまとめたものです。

①エンザロ・ドリームライブラリー(写真①)

ケニア西部のヴィヒガ郡エンザロ村にあるドリームライブラリーは、周辺のいくつかの小学校や中学校にも利用されている。

<利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
幼児	302	418	506	574	403	398	2,601
小学生(8年制)	230	369	473	487	436	328	2,323
中学生(4年制)	149	243	273	226	204	144	1,239
おとな	139	216	202	148	148	133	986
計	820	1,246	1,454	1,435	1,191	1,003	7,149

<開館日> 週6日

4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
25日	24日	25日	24日	26日	25日	149日

<図書館員からの意見やリクエスト>

- ・利用者も年々増えていて、地域の発展のためには読書文化が必要だという考え方がだんだん根付いてきている。
- ・特に中学校の教育システムに合った新しいシラバスの教科書をほしいという声が上がっている。現在ある教科書は今は教育現場で使われていない。
- ・コンピュータについての参考書もほしい。
- ・子どもたちからは、地図もほしいという声が出ている。
- ・利用者の子どもたちは、図書館のサービスに満足している。閉館時間後も勉強したい子どもがいるので、図書館員は時に残業もしてその要望に応えている。

②シャンダ・ドリームライブラリー (写真②)

同じくケニア西部のカカメガ郡にある、2008年にできた子ども図書館で、シャンダ小学校の敷地内にある。

<利用者数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
幼児	195	109	131	38	636	75	1,184
小学生(8年制)	645	700	714	370	688	846	3,963
中学生(4年制)	201	94	104	58	302	143	902
おとな	56	46	77	49	57	114	399
計	1,097	949	1,026	515	1,683	1,178	6,448

<開館日> 週4日

4月	5月	6月	7月	8月	9月	計
16日	16日	17日	18日	17日	17日	101日

<図書館員からの意見やリクエスト>

- ・スペースが広がった(部屋を1つ増築した)ので、生徒がのびのびと読書をしたり勉強したりできるようになった。
- ・読書を楽しむ子どももふえた。
- ・とくに中学校の教科書や学習参考書、事典、聖書などについて利用者からのリクエストが多い。
- ・小学校段階の子どもたちからの読み物のリクエストは、スワヒリ語のものが多い。
- ・登録をした者には貸出をおこなってはどうか
- ・開館日を4日から6日にふやしてはどうか

2) アフリカとその他の活動

<遠野市来日ボランティアの方へ寄贈>

2013年11月、青年海外協力協会（青年海外協力隊経験者を中心に組織された公益団法人）から要請があり、遠野市で活動中の来日青年ボランティアのみなさんに、『エンザロ村のかまど』英語版を1冊ずつ寄贈しました。

アフリカ連合委員会との連携事業で来日したのは、ナイジェリア、エチオピア、カメルーン、ケニア出身の学生、通訳、コンサルタントなど男女7名の若者たち。帰国の際には母国に持ち帰り現地の子どもたちに紹介してくれる約束になっています。ケニア出身のお2人には、スワヒリ語版も差し上げました。ケニアから来たボランティアの1人は、子どもの頃からパティパティ（岸田さんがケニアで紹介した藁草履）を当たり前のように履いていたそうです。今回来日し、この絵本を読んでルーツが遠野だったことを知り、感銘を受けたと話してくれました。

<日本ソーラークッキング協会の紹介によりアフリカからの研修生へ寄贈>

2013年12月、日本ソーラークッキング協会からの紹介で、海外協力機構の研修生として来日中の栄養士さん達に、『エンザロ村のかまど』英語版10冊、スワヒリ語版2冊を寄贈しました。

研修生は、ベナン、エチオピア、ガーナ、ケニア、ザンビア、ジンバブエから来ている政府の職員(大半が栄養士)で、健康増進や母子の栄養改善に尽力している方々。帰国後はそれぞれの国で、まずは地元住民を対象に、教会や地域の女性の集まりなどで『エンザロ村のかまど』を紹介したいとのことでした。

<マラウィ民話プロジェクト>

2013年8月、マラウィ民話プロジェクトを実施中のグループの代表が来訪。お話を伺いました。

同グループは、マラウィで伝承されてきた民話を保護し、次世代の子どもたちへ伝える活動をしており、現在は民話を採集している段階。テレビ、ラジオ番組としてマラウィ国内で放送する予定で、日本国内でも放送や絵本作成などを考えており、可能性をさぐりたいとのこと。

民話の選定や翻訳に関しての助言、参考資料の紹介、日本の文化との交流などの提案をしました。今後も引き続き助言、協力などをしていくことになりました。

<タンザニアからのフィードバック> (写真③)

2012年度に本プロジェクトから本を送ったタンザニアに、児童サービス担当の青年海外協力隊員として赴任していた会員の鈴木晴子が帰国したので、9月の定例会で2年に及ぶ活動の様子を話してもらいました。シャンダやエンザロの図書館運営に有益な工夫や問題意識等が共有され、今後の活動の方向を考えさせられました。

3-3 「アフリカに関する児童書 おすすめリスト」の選書

◎HPでのリストが古いままになっているので、2014年5月までには最新のリストに修正します。

展示本は100冊程度に減らしていますが、HPにはこれまで通り、推薦本全点を掲載しています。

○2013年度、選書会開催

計23冊を検討し、12冊を推薦リストに入れることになりました。詳細は以下のとおりです。

2月 4冊検討 うち『風をつかまえたウィリアム』（さ・え・ら書房）を採用

7月 5冊検討 うち『野生のゴリラと再会する』（くもん出版）、『ゴリラは語る』（講談社）、『古代エジプトよみがえりのひみつ』（小学館）を採用。

10月 14冊検討 うち『むらの英雄』（瑞雲舎）、『ふしぎなボジャビの木』（光村教育図書）、「どうぶつのあかちゃんとおかあさん」シリーズ『ゴリラ』『チーター』『ライオン』（さ・え・ら書房／うち『チーター』を展示本にする）、『1はゴリラ』（岩波書店）、『砂の上のイルカ』（あすなろ書房／展示に入れず『白いキリンを追って』の解題に追加）、『ミサゴのくる谷』（評論社）を採用。

○ケニアのライブラリアンへ送る資料について

・IFLA で出している簡便なものをベースに、言葉を補ったりしてこちらで作らなくては、実際に使える資料にはならないということがわかりました。

www.ifla.org/VII/s10/pubs/ChildrensGuidelines.pdf

・タンザニアで活動していた鈴木晴子（会員）にアドバイスを受けてたり、タイやラオス等で図書館活動をすすめているシャンティ国際ボランティアでのノウハウを教えてもらったりして、佐藤順子（会員）を中心に英文資料作成チームですすめていってはどうか、と考えています。

会員の資料作成チームへの参加、ご意見をお願いします。

○2014年度に向けて

・今後もアフリカ関連の本の刊行が増えそうなので、出来るだけ毎月選書会の時間をもち、おすすめリストを充実させたいと思います。

・さまざまな視点でえがかれたアフリカ関連の本が刊行されるようになったため、スワヒリ語の訳がまちがってはいないか、資料の出典からの確認など、何回か会議でとりあげて、検討を重ねないと決定できない本がたくさんありました。しかしながら、そのような内容確認をできるのが、本プロジェクトの強みでもあるので、丁寧にぶれずにやっていきたいと思います。

・選書会に出席できる人が限られて来るので、来年度も地方の会員をはじめ、多くの方に本を読んでもらい、意見をメール等で募り、選書に反映させたいと思います。

3-4 「アフリカを読む、知る、楽しむ子どもの本展」開催

2013年度は以下の5か所で開催されました。

5月のアフリカンフェスタ2013では、プロジェクトのメンバーをはじめ、親地連、木刈親子読書会のメンバーが、読み聞かせ、アフリカのお面とミニタイコ作りワークショップ、グッズや絵本販売をしました。当日参加者が親子で工作を楽しむ映像が、夕方のNHKニュースに流れました。

10月の親地連全国交流集会では展示の他、分科会のなかで「多文化社会を生きる」として、会員の細江、大澤、鈴木が発表、アフリカを描いた児童書のブックトーク、タンザニアでの活動と『エンザロ村のかまど』スワヒリ語版の紹介などをして好評を博しました。

11月の小倉台図書館で開催された木刈親子読書会主催の展覧会と講演会は、NHK国際放送局ラジオ日本スワヒリ語放送の取材を受けました。グッズの販売も好調でした。また、貸出セットの箱ごとの重量を均等化するために、中身を入れ替えるなどの工夫もしました。

・アフリカンフェスタ2013 横浜赤レンガ倉庫1号館（神奈川）2013年5月11、12日外務省主催、横浜市共催

・国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）2013年10月12、13日 親子読書地域文庫全国連絡会主催（写真④）

・小倉台図書館（千葉）2013年11月20日～24日 木刈親子読書会主催（写真⑤）

・大垣市立図書館（岐阜）2014年1月18日～2月2日 大垣市立図書館主催

・三鷹市立南部図書館みんなみ（東京）2014年3月11日～30日 三鷹市立南部図書館みんなみ主催

※次の出版社様から本年度追加の展示用図書をご寄贈いただきました。お礼申し上げます（50音順・敬称略）。
あすなろ書房、講談社、小学館、そうえん社、PHP研究所、ほるぷ出版、理論社

3-5 支援グッズの製作・販売

活動資金にあてるため、会員の画家（沢田としき、伏原納知子、向井晶子、たかぎちほ）による絵ハガキセット、オリジナルTシャツ（沢田としき絵・白黒それぞれS・M・Lサイズ）に加え、『エンザロ村のかまど』（英語版・スワヒリ語版）を図書展やホームページで販売しました。

本年度より販売している、沢田としき絵の一筆箋も好評です。

3-6 ホームページの更新

これまでインターネットでの情報発信としては、メールによるプロジェクト・ニュース配信の他にホームページとブログを利用していましたが、それに加えて、2014年1月13日に、本プロジェクトのFacebookページを開設しました (<https://www.facebook.com/africachildrenbooks>)。

Facebook ページは、情報を頻繁に発信することが容易にでき、会員・非会員の方々に手軽に見てもらえるという利点があります。本プロジェクトの会員の方々には、メールでの「プロジェクト・ニュース」を通じて、Facebook ページの開設のお知らせに加えて、アクセス方法・使い方の簡単な説明をお送りしました。

2014年5月9日現在、「いいね！」をクリックして下さった方は178名で、会員数よりも多くなっています。日本各地だけでなく、アメリカ、ケニア、ドイツ、オーストラリア、インドネシアといった海外からもアクセスがあります。

Facebook ページでは、「おすすめ本」から週1冊ずつを紹介している他、ドリームライブラリーの様子や展示会の開催案内など本プロジェクトの活動に関わる情報、広くアフリカに関する情報などをアップしています。

今後の課題もいくつかあります。まず、Facebook とホームページとブログの役割を吟味して、それぞれの連携や整理統合をする必要があります。それとともに、「おすすめ本」リストの更新をはじめとして、プロジェクトに関する最新の情報をすみやかに発信できるような体制整備が望まれます。また、会員の皆さんの声を聞いたり、相互交流をしたりなど、プロジェクトを活性化するために Facebook がどのように使えるか、検討をしていきたいと考えています。

3-7 「プロジェクト・ニュース JACBOP NEWS」の発信

電子メールを使って、運営会の報告、新会員の紹介、ケニアのドリームライブラリーの様子その他を会員向けに35回発信しました。

4、会計報告 (2013.4.1~2014.3.31)

(省略)

おもちゃの動画公開中!
Youtube isseisha で検索を!

型紙付
手作りおもちゃシリーズ
ストロー紙コップなどで簡単に作れる! ①②巻

芳賀 哲著 各定価1575円(税込)

2巻
かわいい♡びっくり!
動く手作りおもちゃ 新刊
長持ちするアクリル色が変わる
マジックアート・フーリングなど22作品
●978-4-87077-217-6

1巻
作って・歌って・遊んで・あそぶ
おはなし小道具
33個つくろえ! アクリル色が変わる
びっくり動く花など20作品
●978-4-87077-215-1

一声社
〒113-0032 東京都文京区本郷 9-11-6
TEL 03(3812)0287
FAX 03(3812)0537



【ハンダのびっくりプレゼント】(光村教育図書)を贈り子どもたち

つきました。先生の要望、趣旨をメールでお伝えし、運営会での検討を経たのち、ザンビアへ図書を選びました。先生からのお礼のメールには、一冊の本を頭をくつつけるように囲みながら読んでいる子どもたちの写真がありました。ザンビアの子どもたちは、本に書かれた文字を読んだり絵を見ることがほとんどない。そこで、色のついた絵本に驚き、読みませると夢中

本を通じてアフリカとつながる
「アフリカ子どもの本プロジェクト」の活動をおして

大澤倫子 杉並区立小学校教員

学校図書館の中で、アフリカをテーマとする物語や絵本は欧米文学に比べると少なく、意識して手渡さない、子どもたちはなかなか手に取りません。小学校の学習単元でも、世界の国々、戦争や紛争についての調べ学習の中で、一部の子どもたちがアフリカの資料を使う程度です。私自身、特別にアフリカに関心はなく、関係する図書資料に詳しいわけでもありませんでしたが、アフリカを支援する活動に参加するようになったのは、一つのきっかけがありました。

二〇〇九年に勤務していた小学校の養護の先生が、青年海外協力隊としてアフリカのザンビアに行くことになり、「子どもたちとコミュニケーションをとるために阿部か絵本を持っていきなさいけれど、どんな本がいいかしら?」という相談を受けました。ザンビアは英語が公用語ですが、子どもたちの英語力は高くはないと思われ、短文の易しい絵本がいいことだったので、英語で書かれた定番の絵本や簡単に折れる折り紙の本など、十冊程度遊びお渡ししました。その後、ザンビアから、「もっとたくさん本を持ってこみなさい」というメールがきました。日本でも図書を送ってくれる団体はないかと、というメールがきました。インターネットを検索しアフリカでの読書活動を支援している団体として、「アフリカ子どもの本プロジェクト」を見

『子どもと読書』2013年5・6月号

エンザロ村のかまど
エンザロ村 (Zanzibar)

アフリカの文化やアフリカの子どもたちのことを伝えるという二つの目的をもって活動を続けています。翻訳家のさくまゆみさんが代表となり、会員数は、二〇一二年度末で九十五名います。会員は翻訳家、編集者、出版関係者、画家、司書などの他、イベント会場などで会の運営に賛同し活動に力をつけてくださる方もいます。

活動としては、ケニアの二つのドリームライブラリーについて、ライブラリアンのお給料や運営費を援助したり、図書館運営への提言をしています。また、アフリカ各地で活動されている方々に図書を寄贈したり、日本国内で開催されるアフリカ関係の図書の展示品の貸し出し、アフリカを知るためのイベントに参加しています。毎月一回運営会を持ち、団体や個人からの支援申し込みについて検討したり、図書館で貸し出す図書の業者やイベント等の打ち合わせを行っています。運営については、日本で出版され

るアフリカ関係の図書について会員で読みあい、アフリカの文化や社会を適切に伝えていくか、本としての魅力的な作りになっているか、内容が読りやすいかなどを確認し、おすすめリストに追加しています。このリストはホームページで表紙の画像、冊誌事とともに紹介しています。

この会での活動は私的なボランティア活動ですが、今まで全く知らなかったアフリカの事との出会いがあります。そこに住む人々のくらしの中の色強い、生き物どのかかりの中で生まれた楽しいお話、日本では感じることがない価値観や文化に触れることができ、また、運営会でケニアの図書館の現状を知り、様々な国で本を届けたい方もいるようにもなりました。これからは、私がこの会とおしてアフリカとつながるように、日本の子どもたちにアフリカを知るための本を手渡すことで、アフリカとつながってほしいと思っています。

アフリカ子どもの本プロジェクト・ホームページ
<http://www.hanunantane.com/>